

清酒の製造状況等について

令和2酒造年度分

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の総括	2
3. 清酒の製造場数等	3
4. 清酒の製造数量	7
5. 原料米の使用数量等	10
6. 原料用アルコールの使用数量	13
＜参考1＞令和2酒造年度清酒製造状況一覧	
＜参考2＞令和2酒造年度都道府県別清酒製造数量	
＜参考3＞清酒製造数量の推移	
＜参考4＞玄米使用数量の推移	
＜参考5＞特定名称酒の課税移出数量等の推移	
＜参考6＞清酒の製造方法別課税移出数量の推移	

国税庁 課税部 鑑定企画官

1 調査の概要

1-1 調査目的

この調査は、個々の清酒製造業者の清酒製造状況を分析し、各国税局鑑定官室の諸施策に活用することにより清酒の品質の確保に資するとともに、日本国内における清酒の製造及び製造に関連する事項の実態を把握した上で、国税庁の行う各種の施策を通じて、清酒製造業の発達改善に資することを目的としています。

1-2 調査対象期間

調査対象期間は、令和2酒造年度（令和2年7月1日～令和3年6月30日）としています。

1-3 調査対象者

調査対象者は、清酒の製造免許を有する酒類製造者とし、調査表を清酒製造場又は蔵置場ごとに提出いただいています。

2 調査結果の総括

令和2酒造年度においては、当該調査対象期間に清酒を製造した場数及び清酒全体の製造数量は、いずれも長期的に減少傾向が続いておりますが、一方で製造場数のうち、純米酒及び純米吟醸酒については、吟醸酒、本醸造酒、特定名称以外の清酒（以降、「一般酒」と表記します。）と比較して減少が緩やかな傾向にあります。

製造数量全体に占める特定名称清酒の割合（構成比）は低下し、一般酒の割合が上昇しました。

原料米について、平均精米歩合はほぼ横ばいですが、純米吟醸酒の精米歩合は低くなり、一般酒の精米歩合は高くなりました。

3 清酒の製造場数等

3-1 概要

清酒製造場数は全体として減少傾向にあります。

3-2 解説

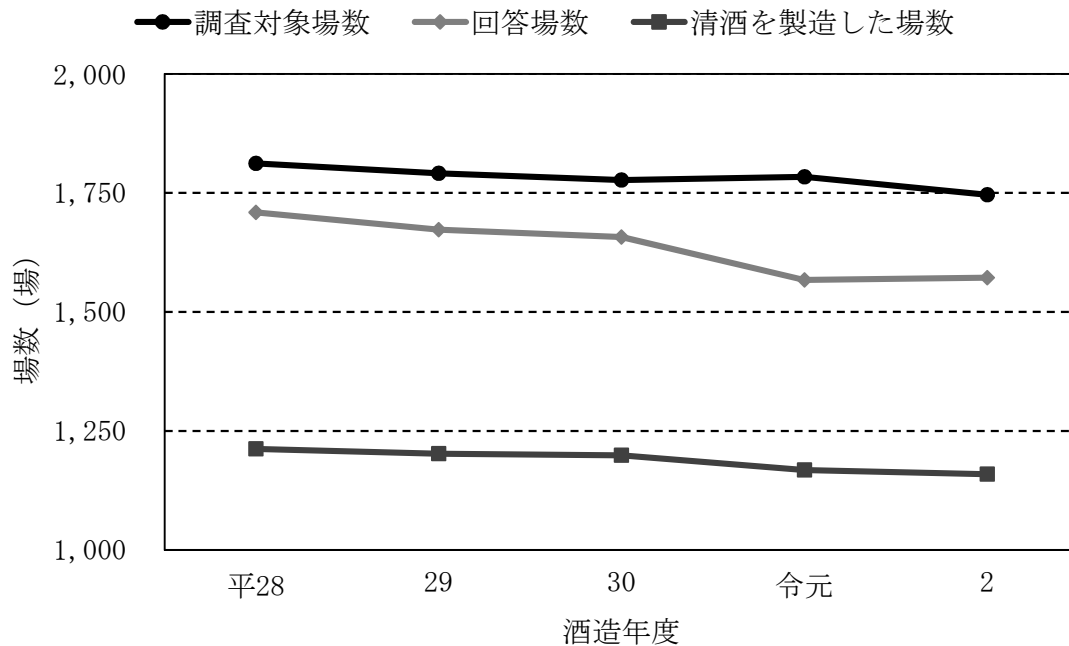
調査対象場数（蔵置場を含む。）1,746 場のうち、回答場数は1,572 場（回収率 90.0%）であり、令和元酒造年度調査と比較して5 場増加しました。

回答場数のうち、令和2 酒造年度において清酒を製造した場数は1,159 場で、令和元酒造年度調査と比較して9 場の減少です。

製造方法別の製造場数は、特定名称清酒においては、純米酒 986 場（前年度 1,004 場）、純米吟醸酒 1,057 場（同 1,082 場）、吟醸酒 732 場（同 805 場）、本醸造酒 646 場（同 731 場）であり、一般酒は 709 場（同 792 場）となっています。

全調査場数等の推移は図 3-1、表 3-1、製造方法別調査場数の推移は図 3-2、表 3-2 のとおりです。

図 3-1 全調査場数等の推移



(参考) 平成 28 酒造年度を基点とした場数の比率

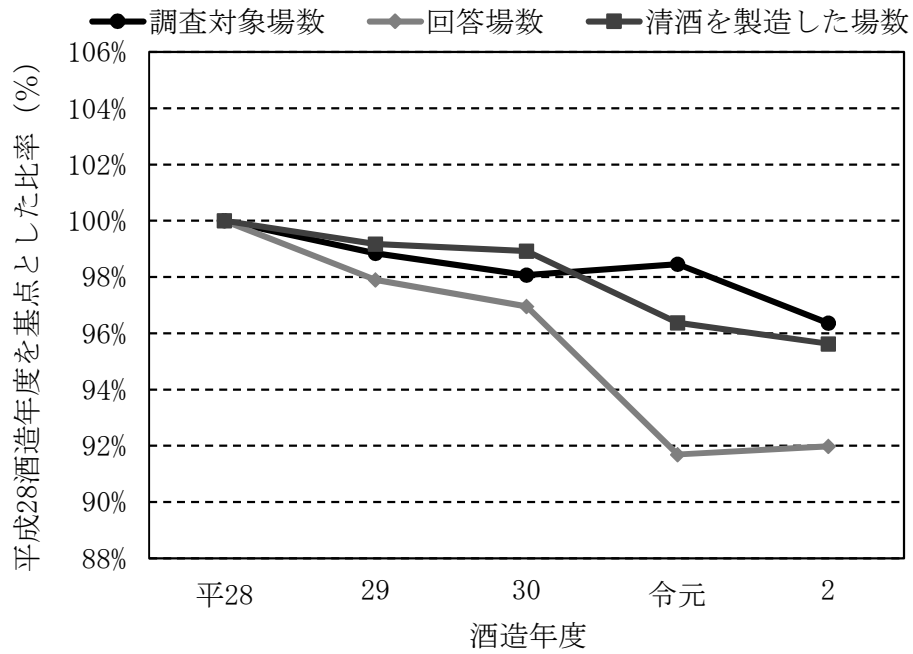
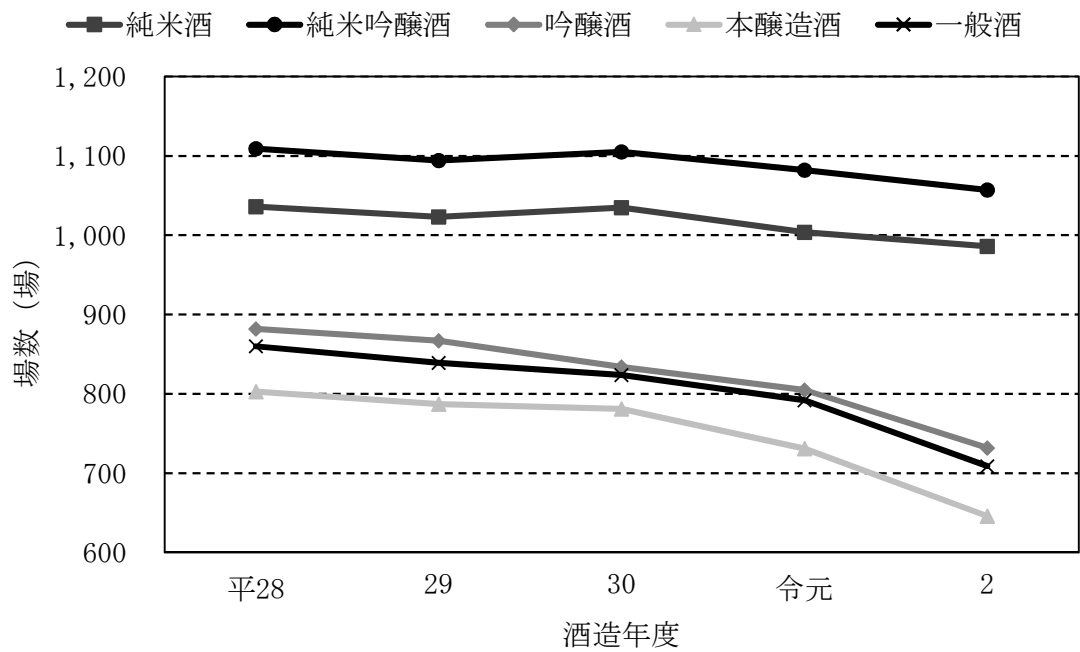


図 3 - 2 製造方法別回答場数の推移



(参考) 平成 28 酒造年度を基点とした場数の比率

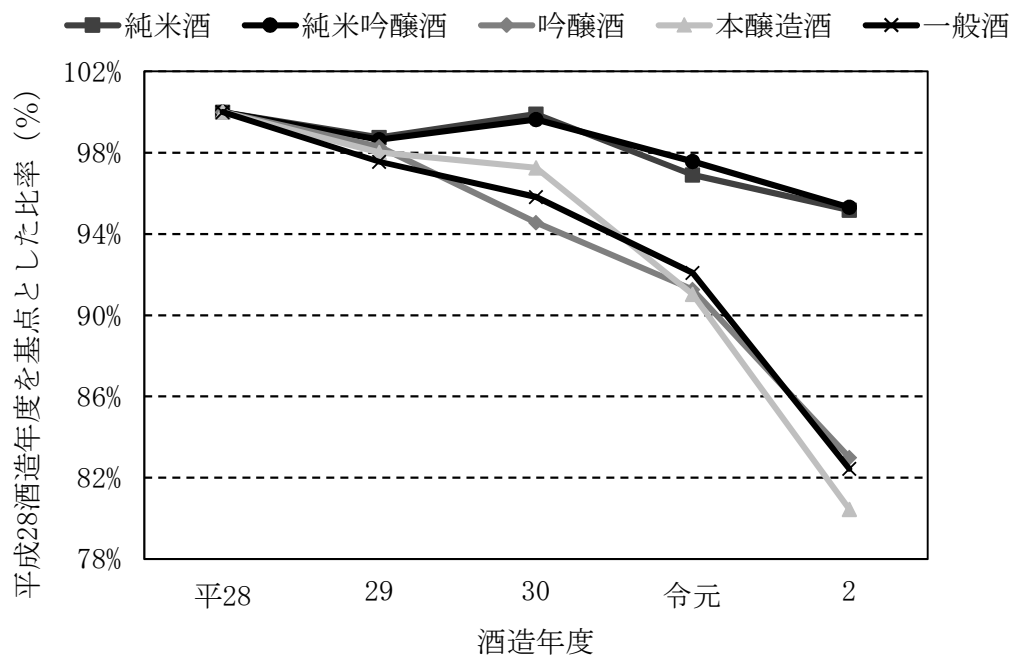


表 3 - 1 全調査場数等の推移

区分	酒造年度				
	平 28	29	30	令元	2
調査場数	場 1,812	場 1,791	場 1,777	場 1,784	場 1,746
回答場数	1,709	1,673	1,657	1,567	1,572
(内) 清酒を製造した場数	1,212	1,202	1,199	1,168	1,159

表 3 - 2 製造方法別調査場数の推移

酒造 年度 区分	平 28	29	30	令元	2
純 米 酒	場 1,036	場 1,023	場 1,035	場 1,004	場 986
純米吟醸酒	1,109	1,094	1,105	1,082	1,057
吟 醸 酒	882	867	834	805	732
本 醸 造 酒	803	787	781	731	646
一 般 酒	860	839	824	792	709

4 清酒の製造数量

4-1 概況

清酒の製造数量は全体として減少傾向にあります。

4-2 解説

令和2酒造年度における清酒の製造数量（アルコール分20度換算数量）は、302,657kl（対前年度比11.1%減）です。そのうち、特定名称清酒の製造数量は、119,896kl（対前年度比19.4%減）となっています。

特定名称清酒の製造方法別の製造数量を前年度と比較すると、純米酒は対前年度比19.4%減、純米吟醸酒は同11.4%減、吟醸酒は同16.3%減、本醸造酒は同34.1%減となっています。

製造数量のうち、近年は特定名称清酒の構成比が上昇する傾向にありましたが、今年度は一般酒の構成比が上昇しました。

製造方法別製造数量の推移は図4-1及び表4のとおりで、純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移は図4-2のとおりです。

図4-1 製造方法別製造数量（アルコール分20度換算）の推移

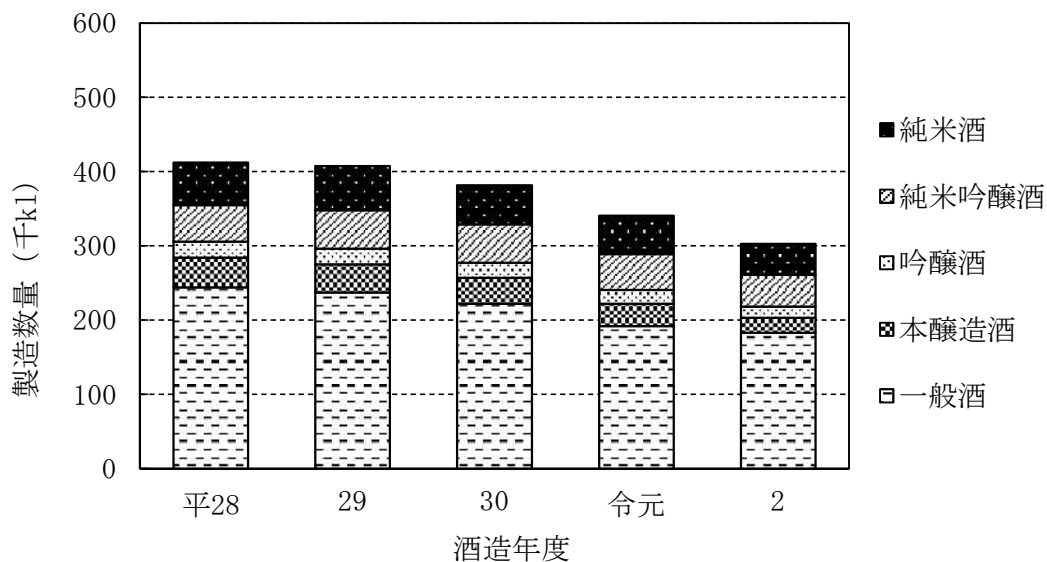


図4-2 純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移

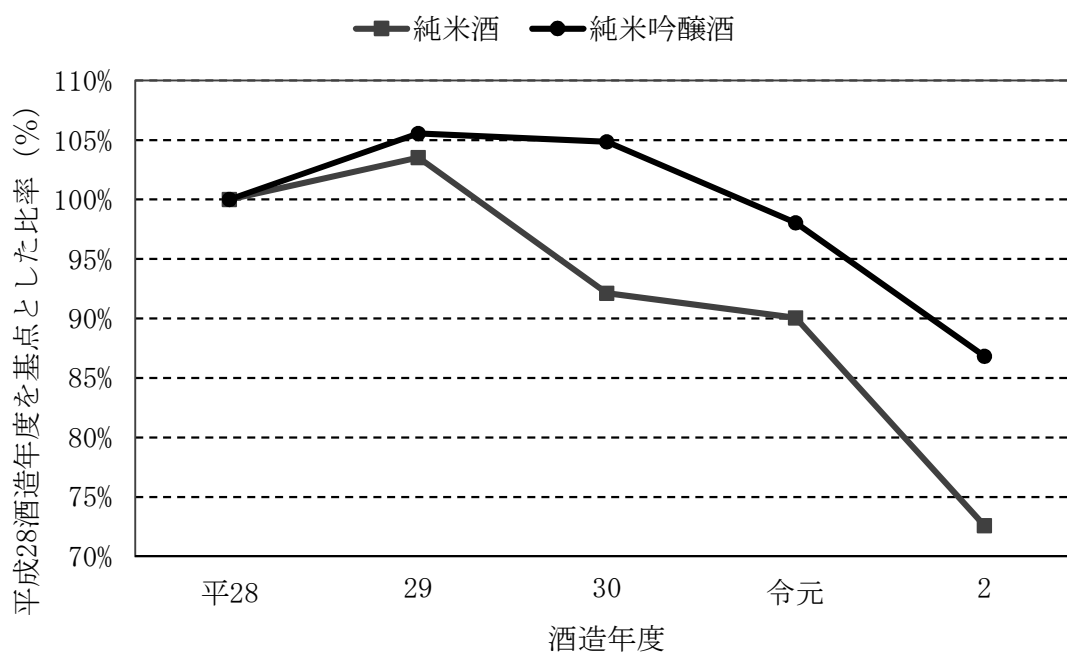


表4 製造方法別製造数量（アルコール分20度換算）の推移

区分	酒造年度	平28	29	30	令元	2	前年度比
純米酒		k1	k1	k1	k1	k1	%
		(13.9)	(14.6)	(13.9)	(15.2)	(13.8)	
		57,491	59,519	52,970	51,778	41,744	80.6
純米吟醸酒		(11.9)	(12.7)	(13.5)	(14.1)	(14.1)	
		49,103	51,831	51,488	48,147	42,639	88.6
吟醸酒		(5.2)	(5.2)	(5.4)	(5.4)	(5.1)	
		21,489	21,149	20,557	18,445	15,432	83.7
本醸造酒		(9.8)	(9.4)	(9.1)	(8.9)	(6.6)	
		40,232	38,144	34,821	30,462	20,082	65.9
(特定名称の清酒)		(40.8)	(41.9)	(41.9)	(43.7)	(39.6)	
小計		168,314	170,643	159,836	148,832	119,896	80.6
一般酒		(59.2)	(58.1)	(58.1)	(56.3)	(60.4)	
		243,955	236,920	221,914	191,664	182,761	95.4
合計		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
		412,270	407,563	381,749	340,496	302,657	88.9

(注) 1. () 書は、構成比(%)です。

2. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。

5 原料米の使用数量等

5-1 概要

平均精米歩合はほぼ横ばいですが、純米吟醸酒の精米歩合は低くなり、一般酒の精米歩合が高くなりました。

5-2 解説

令和2酒造年度における清酒用原料米は、玄米としては179,985t（対前年度比12.5%減）、白米としては115,342t（同12.8%減）が使用されています。

原料米使用数量の推移は図5-1及び表5-1のとおりです。

平均精米歩合は63.4%（前年度63.2%）で、ほぼ横ばいです。純米吟醸酒の精米歩合は低くなり、一般酒の精米歩合は高くなりました。平均精米歩合の推移は図5-2及び表5-2のとおりです。

図5-1 原料米使用数量の推移

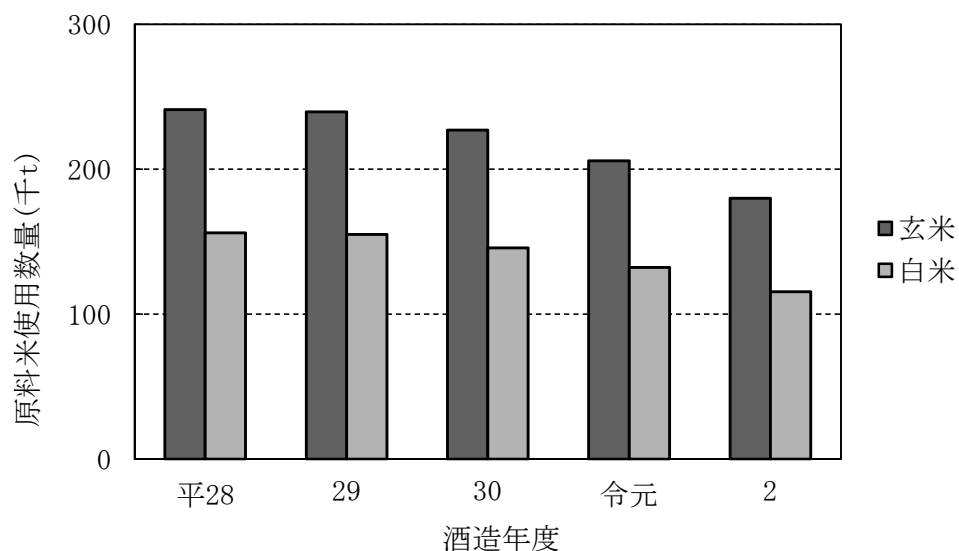
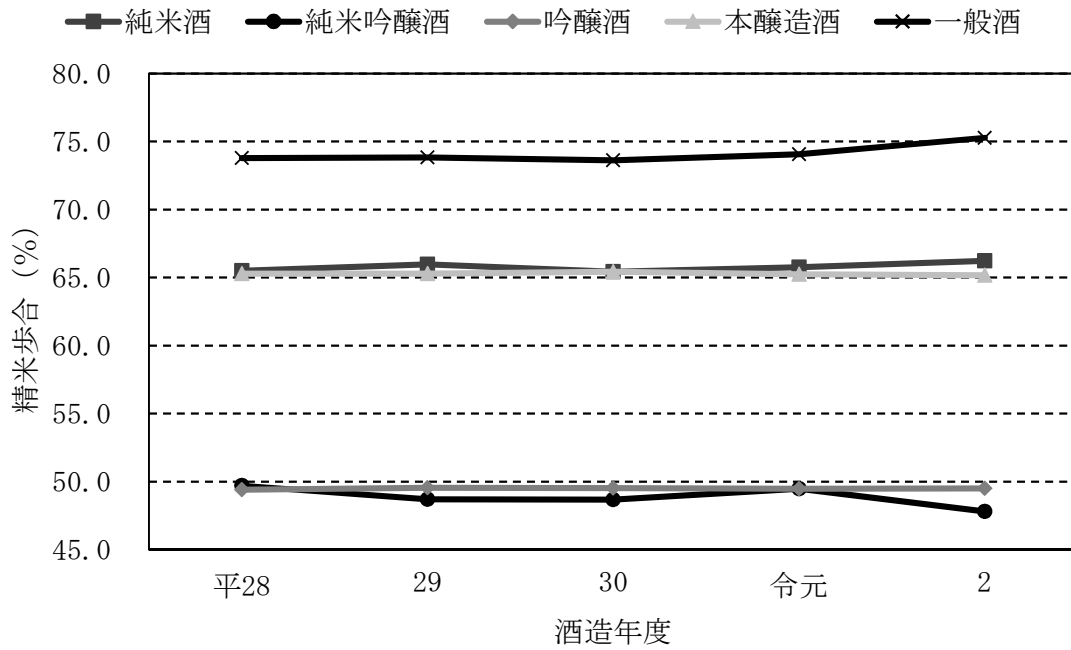


図5-2 製造方法別平均精米歩合の推移



(参考) 平成28酒造年度を基点とした場合の精米歩合の比率

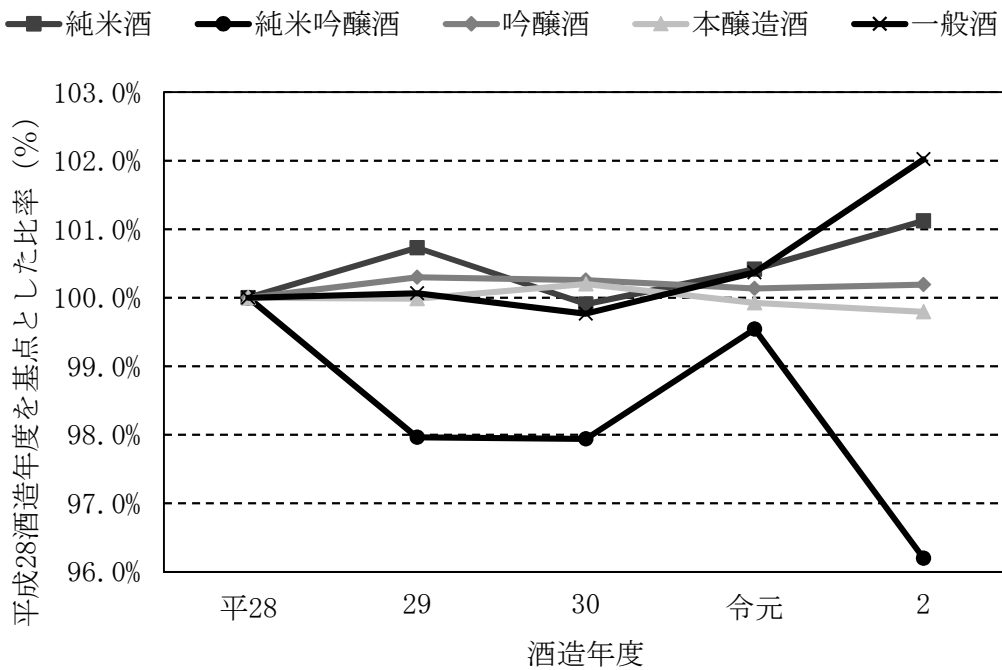


表 5 - 1 原料米使用数量の推移

区分	酒造年度					
	平 28	29	30	令元	2	前年度比
玄 米	t 241,022	t 239,517	t 227,025	t 205,662	t 179,985	% 87.5
白 米	156,110	155,007	145,619	132,282	115,342	87.2

表 5 - 2 平均精米歩合の推移

区分	酒造年度				
	平 28	29	30	令元	2
純 米 酒	% 65.5	% 66.0	% 65.4	% 65.8	% 66.2
純米吟醸酒	49.7	48.7	48.7	49.5	47.8
吟 醸 酒	49.4	49.5	49.5	49.5	49.5
本 醸 造 酒	65.3	65.3	65.4	65.3	65.2
一 般 酒	73.8	73.8	73.6	74.1	75.3
全 体	64.0	63.5	63.0	63.2	63.4

6 原料用アルコールの使用数量

6-1 概要

原料用アルコールの使用数量は減少しましたが、白米1 t当たりの使用数量は増加しました。

6-2 解説

令和2酒造年度の清酒製造に使用された原料用アルコールの数量（アルコール分100度換算数量）は17,137kl（対前年度比7.7%減）です。

白米1 t当たりに換算すると148.61（同5.9%増）となり、近年減少傾向にありましたが、本年度は増加しました。原料用アルコールの使用数量の推移は図6及び表6のとおりです。

図6 原料用アルコール使用数量（アルコール分100度換算）の推移

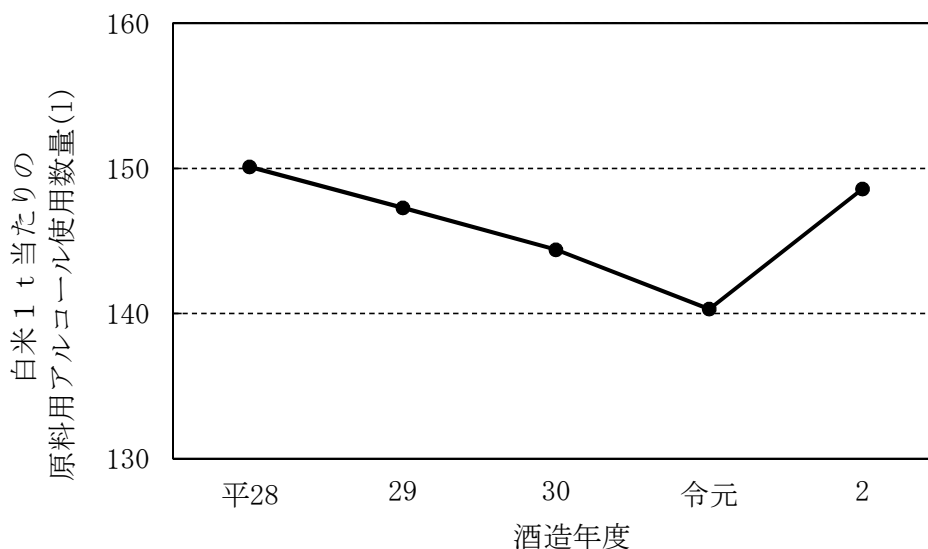


表6 原料用アルコール使用数量（アルコール分100度換算）の推移

区 分	酒造年度					
	平 28	29	30	令元	2	前年度 比
使用数量	k1 23,432	k1 22,828	k1 21,400	k1 18,559	k1 17,137	% 92.3
白米1 t 当たり 使用数量	1 150.1	1 147.3	1 144.4	1 140.3	1 148.6	% 105.9

令和2酒造年度清酒製造状況一覽

区分	製造場数	製成清酒			
		実数	純アル数量	平均アルコール分	平均日本酒度
純米酒	986	47,371	8,349	17.6	1.2
純米吟醸酒	1,057	50,721	8,528	16.8	0.5
吟醸酒	732	16,633	3,086	18.6	3.1
本醸造酒	646	20,568	4,016	19.5	2.7
一般酒	709	179,205	36,552	20.4	1.6
全体	1,159	314,499	60,531	19.2	1.5

区分	製成かす 実数	使用原料			
		米		アルコール又は焼酎	
		玄米	白米	(純アル数量)	白米1tあたり
	t	t	t	kl	l
純米酒	6,562	33,306	22,059	—	—
純米吟醸酒	9,075	49,274	23,558	—	—
吟醸酒	2,495	13,713	6,787	681	100.4
本醸造酒	2,615	13,117	8,548	931	108.9
一般酒	11,401	70,574	54,390	15,525	285.4
全体	32,147	179,985	115,342	17,137	148.6

区分	使用原料					
	糖類		酸類			
	ぶどう糖	水あめ	乳酸	こはく酸	くえん酸	りんご酸
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
純米酒	—	—	—	—	—	—
純米吟醸酒	—	—	—	—	—	—
吟醸酒	—	—	—	—	—	—
本醸造酒	—	—	—	—	—	—
一般酒	904,854	2,162,396	9,527	5,521	4,877	560
全体	904,854	2,162,396	9,527	5,521	4,877	560

区分	使用原料			各種歩合	
	清酒かす	清酒 実数	純アル数量	精米歩合	かす歩合
純米酒	—	—	—	66.2	29.7
純米吟醸酒	—	—	—	47.8	38.5
吟醸酒	—	—	—	49.5	36.8
本醸造酒	—	—	—	65.2	30.6
一般酒	33	58	9	75.3	20.9
全体	33	58	9	63.4	27.8

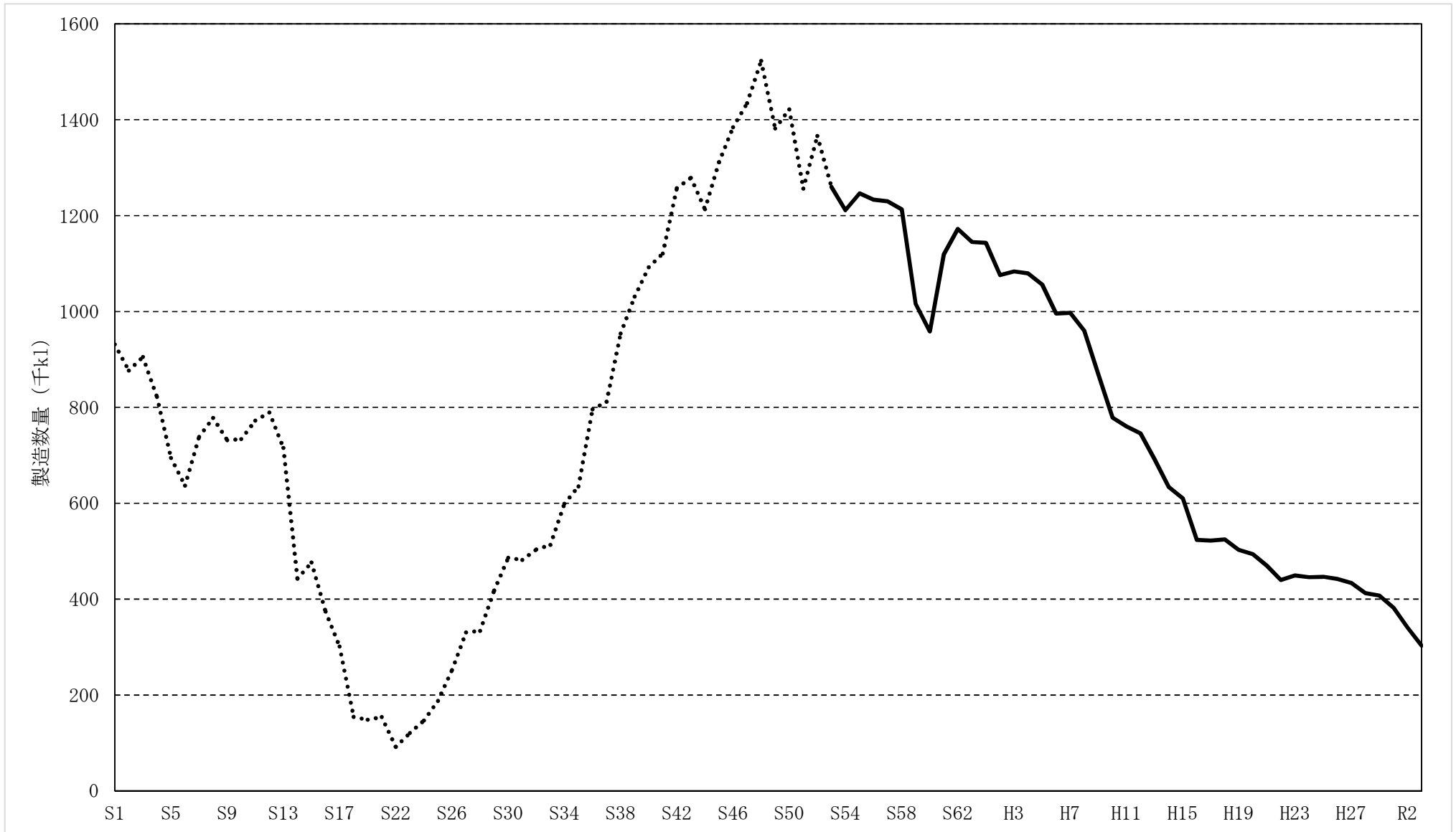
- (注) 1. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。
2. 純アル数量とは、清酒（実数）に含まれるアルコール分(100度換算)の数量をいいます。
3. 日本酒度とは清酒の比重を表す指標です。
4. 精米歩合とは、玄米からぬか、胚芽等の表層部を取り去った状態の米の、その玄米に対する重量の割合をいいます。

<参考2> 令和2酒造年度都道府県別清酒製造数量（アルコール分20度換算）

数量 (kl)	清酒全体	内			数量 (kl)	清酒全体	内			数量 (kl)	清酒全体	内		
		特定名称酒	吟醸系	純米系			特定名称酒	吟醸系	純米系			特定名称酒	吟醸系	純米系
都道府県					都道府県					都道府県				
北海道	2,346	1,434	457	1,094	神奈川県	504	463	306	381	鳥取県	414	351	223	314
青森県	2,514	2,085	902	1,835	山梨県	6,444	2,979	841	2,830	島根県	1,077	778	326	714
岩手県	1,468	1,081	476	749	富山県	2,614	2,142	1,041	1,064	岡山県	1,329	915	356	509
宮城県	4,000	3,821	1,196	2,611	石川県	3,123	2,772	930	2,248	広島県	4,625	2,434	1,108	1,679
秋田県	11,744	6,521	3,684	4,097	福井県	1,774	1,375	987	932	山口県	6,121	5,839	5,542	5,675
山形県	5,160	4,522	2,753	3,367	岐阜県	2,590	1,899	1,126	1,294	徳島県	254	228	115	148
福島県	7,572	5,056	2,895	4,185	静岡県	2,239	1,872	715	1,305	香川県	433	348	86	162
茨城県	1,810	1,184	520	980	愛知県	7,567	1,562	1,053	1,134	愛媛県	826	484	350	324
栃木県	5,829	1,932	1,073	1,729	三重県	1,597	1,448	978	1,242	高知県	3,105	2,340	934	1,901
群馬県	1,494	1,016	468	586	滋賀県	2,368	865	471	759	福岡県	2,021	1,383	688	1,088
埼玉県	17,378	2,440	788	1,595	京都府	55,262	9,118	3,844	7,026	佐賀県	1,657	1,302	635	1,070
新潟県	24,964	18,257	10,676	8,796	大阪府	485	395	191	261	長崎県	465	247	119	146
長野県	4,769	3,257	1,611	2,500	兵庫県	91,621	19,107	5,572	12,323	熊本県	432	317	97	205
千葉県	5,292	864	426	623	奈良県	1,670	1,338	610	1,217	大分県	1,540	546	127	395
東京都	831	606	252	407	和歌山県	1,194	850	467	775					

- (注) 1. 「吟醸系」とは、吟醸酒及び純米吟醸酒の合計を示しています。
 2. 「純米系」とは、純米酒及び純米吟醸酒の合計を示しています。
 3. 製造数量が200kl未満の県については記載を省略しています。

<参考3> 清酒製造数量（アルコール分20度換算）の推移



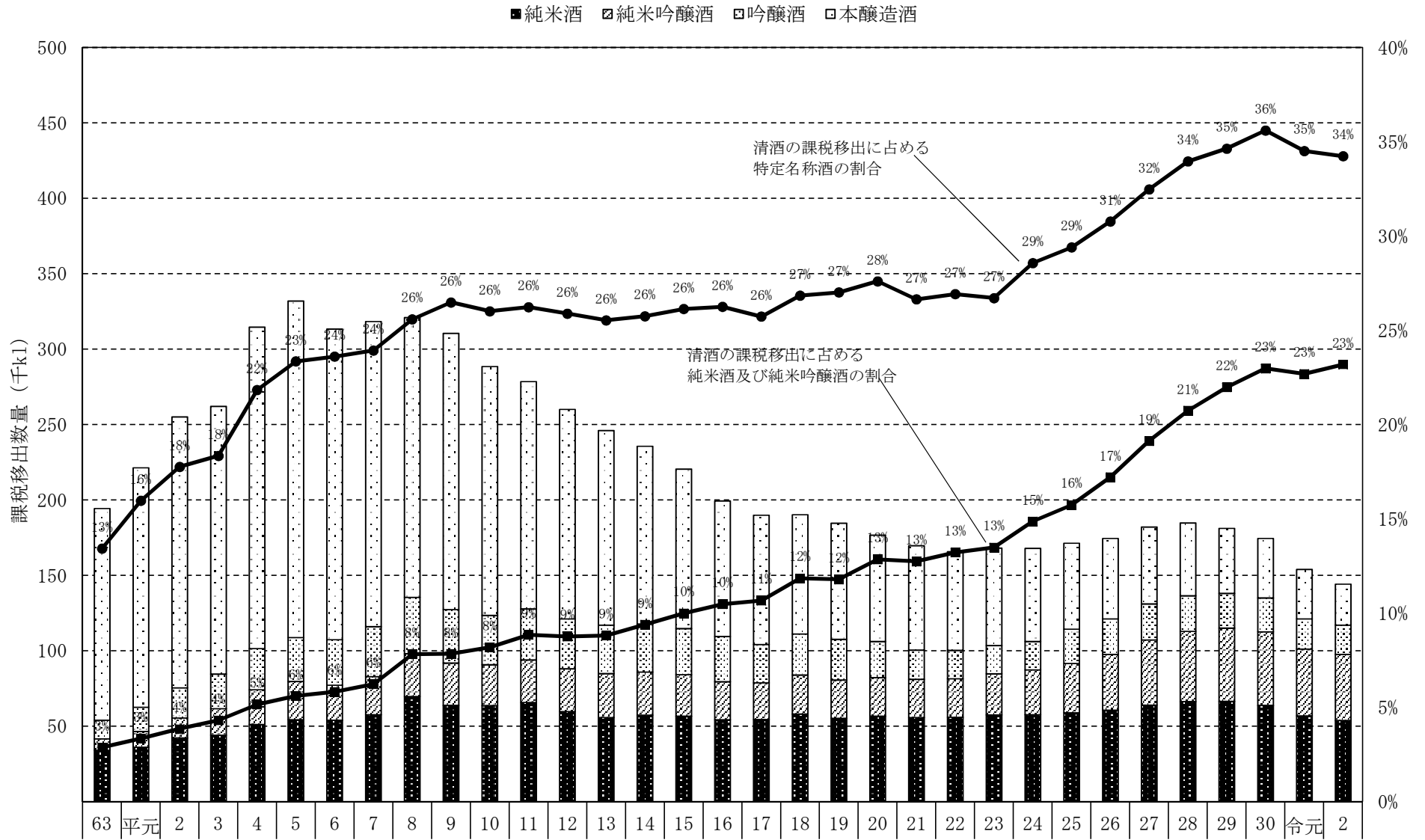
- (注) 1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
2. 清酒製造数量のピークは昭和48年です。

<参考4> 玄米使用数量の推移



- (注) 1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。
2. 玄米使用数量のピークは昭和48年です。

<参考5> 特定名称酒の課税移出数量（実数）等の推移



<参考6> 清酒の製造方法別課税移出数量（実数）の推移

